福岡・長安寺廃寺跡

1 所在地　福岡県朝倉郡朝倉町大字須川字馬乗・鐘突
2 調査期間　第八次調査　一九九九年（平11）一月～三月
3 発掘機関　朝倉町教育委員会
4 調査担当者　姫野健太郎
5 遺跡の種類　寺院跡
6 遺跡の年代　八世紀前半～一一世紀
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

朝倉町は筑後川中流の右岸に位置し、古代においては大宰府から豊後に抜ける交通の要衝であった。長安寺廃寺跡は朝倉町のほぼ中央部の長安寺区に所在する。

（甘　木）

本遺跡は江戸時代から、斉明天皇が行幸した朝倉橘広庭宮跡の比定地と考えられてきた。この伝承にもとづき、一九三三年より「宮跡」究明のため数回の発掘調査が、福岡県により行なわれた。『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書』第一二輯（福岡県　一九三七年）によると、寺域推定地のほぼ中央に「葺石の如き状態」で地固めされた区域と、寺域推定地の東端において、南北四六尺東西三四尺の規模をもつ三間×五間の南北棟礎石建物が検出されている。また、三七点の墨書・ヘラ書・刻印土器が報告され、これら墨書土器の内容から寺名を「朝倉大寺」とし、主要伽藍のほか僧坊・食堂・鐘楼などの建物を持ち、四〇人以上の僧侶を配する寺院と推定している。その後、『朝倉橘広庭宮跡伝承地第三次発掘調査報告書』（九州歴史資料館一九七六年）では、寺域東端の礎石建物を四間×五間の南北棟と修正したうえで、検出遺構を総合的に考察し、「宮跡の存在は勿論、主要伽藍の存在さえあやぶま」れ、「かなりの大寺院を想定していたが、それさえ検討を要する」として、寺院の規模を下方修正した。

一九九七年からは、町教委が大宰府式鬼瓦、鴻臚館・老司式の瓦が出土する「長安寺廃寺跡」としての遺跡保護を目的に、範囲確認調査を行なっている。第八次調査は、一九九三年に調査された東西方向の落ち込みを寺域の北端の溝と想定し、寺域北辺区画溝の様相を把握するために行なわれた。溝は概ね東西方向に流れ、これと直行する方向に三×一二mの調査区を設定した。

調査の結果、溝は幅九m深さ一・二mで、断面は逆台形状を呈することがわかった。遺物の出土は周辺の整地土の流れ込みを挟んで、上層と下層に分かれる。整地土の流れ込みから出土した遺物は概ね

奈良時代後半で、木簡の多くは整地土流れ込みの上面付近で出土した。また、遺物は両岸から廃棄されており、溝の南北に建物が想定されるが、建物の性格は不明である。

なお、一九三三年から二〇〇〇年までに、九五点の墨書土器が出土している。その内容は、「大寺」「寺」「知識」など寺院に関するもの、「乙成」「又王」「何束」（筑前国上座郡何束郷）など固有名詞と考えられるもの、「主帳」「須」「小」「申□」「中」（ヘラ書き）などがある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　(285)×(36)×11　081

・□□□座座座座□〔座カ〕□〔座カ〕

『　』（削り残リ）

・『　』（削り残リ）

□□

(2)　(138)×29×9　019

「万呂□民上主村国

(3)　(38)×33×4　081

〔上カ〕
□□

(4)　(157)×(20)×4　019

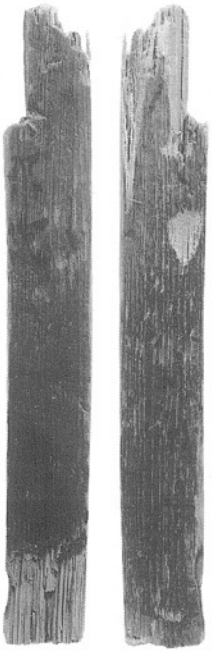
「一升〔五カ〕□合　〔各カ〕□マ〔次カ〕□

(5)　(66)×17×15　065

・「宗□（表面）

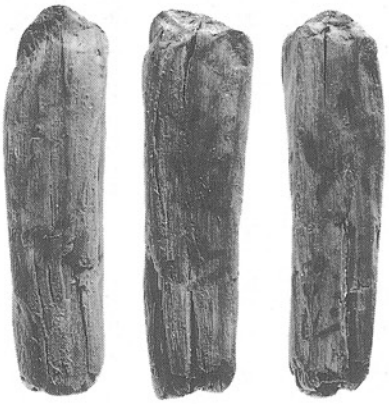
・「□二（左側面）

・「　不（裏面）



(1)

(2)



（表面）　（左側面）　（裏面）

(5)

出土木簡は全部で五点。(1)は上下折れ、右削り、左割れ。表面は「座」字の習書であるが、あるいは本遺跡が位置する上座郡と関係するか。(2)は上・左右削り、下折れ。右側面の削りは左側面よりも荒く二次的削りの可能性あり。裏面は加工され、あるいは何らかの木製品を転用したものか。歴名風の木簡とみられる。(3)は上下折れ、左右削り。小断片であり、文字は確定し難い。(4)は下折れ、左割れ。上部は丸みをつけて加工する。荷札か。「各マ」は「額部」で額田部のことであろう（『平城宮木簡』三、二九一五号・三二九五号木簡など参照）。(5)は四角柱の三面に文字を書く。上部は四角錐状に削る。中国ではこうした形状の木簡は「觚」と呼ばれる。同様の形状のものは徳島県観音寺遺跡に例がある（本誌第二〇号）。裏面を中心に焼痕あり。

いずれも字数はあまり多くなく、不明な点も多いが、墨書土器の記載や郡名と関係するとみられる習書から、本遺跡が上座郡のいわゆる「郡寺」である可能性も想定できよう。また、「觚」状木簡の出土も興味深い。

なお、木簡の釈読は奈良国立文化財研究所の舘野和己・馬場基が行なった。

（1～7　姫野健太郎　8　馬場　基〈奈良国立文化財研究所〉）

木簡研究第一六号

吉田　孝

巻頭言

一九九三年出土の木簡

概要　平城宮跡　平城京跡右京二条三坊四坪　薬師寺旧境内　大安寺旧境内　興福寺旧境内　東大寺　阪原阪戸遺跡　藤原宮跡　藤原京跡　右京九条四坊　飛鳥京跡　定林寺北方遺跡　金剛寺遺跡　下茶屋遺跡　長岡京跡(1)　長岡京跡(2)　平安京跡左京三条三坊十三町　大坂城跡(1)　大坂城跡(2)　大坂城下町跡　若江遺跡　西ノ辻遺跡　袴狭遺跡(1)　袴狭遺跡(2)　砂入遺跡　祢布ヶ森遺跡　見蔵岡遺跡　木梨・北浦遺跡　藤江別所遺跡　阿形遺跡　伊勢寺遺跡　御殿・二之宮遺跡　東中館跡　長崎遺跡　八幡前・若宮遺跡　大宮遺跡　三堂遺跡　鴨田遺跡　大戌亥遺跡　杉崎廃寺　元総社寺田遺跡　南A遺跡　安子島城跡　山王遺跡　今塚遺跡　払田柵跡　福井城跡　一乗谷朝倉氏遺跡　戸水大西遺跡　西念・南新保遺跡　八幡林遺跡　宮長竹ヶ鼻遺跡　タテチョウ遺跡　円城寺前遺跡　古市遺跡　郡山城下町遺跡　周防国府跡　初瀬遺跡　船戸遺跡　ヘボノ木遺跡　原の辻遺跡

一九七七年以前出土の木簡（一六）

平城京跡左京一条三坊十五・十六坪　山里純一

沖縄の呪符木簡について　奥野義雄

いまに息づく呪符・形代の習俗　今泉隆雄

文書木簡はいつ廃棄されるか　今津勝紀

史料紹介　近世の畳の頭板について　鈴木景二

史料紹介　近世の荷札木簡の一例

彙報

頒価　五五〇〇円　送料六〇〇円